



KITAHIROSHIMEN

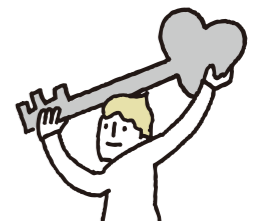
# 本音で話そう



# やってみよう



# 楽しもう



## さあ、行動を 開始しよう！

これからの農業

これからの子育て

これからの介護…

来たる少子高齢化時代に

私たちがやるべきことは？

# chapter 01

『協働』という、  
とらえどころのない言葉。



## はじめに

「協働」を辞書で調べると「同じ目的のために、協力して働くこと」と書かれています。もともとは、「共に、共通の」という意味の「Co」と、「Production(生産、産出、成果)」を合わせた「Coproduction」という用語が起源と言われており、日本語に訳す際に「協働」という言葉が生まれたとされています。

日本では「結」や「講中」という言葉があるように、古くから「協力し支え合う」文化があります。

この行動指針は、「協働」について考え、これから協力し支え合う関係を深めていくための今後の取組みを示したものです。



# chapter 02

## 対話から見えてきた キーワード



### 本音の話し合い

「協働って何だろう?」。そんな答えがすぐには出てこないテーマで、お互いの立場や役割を超えて「個人」として対等に話をする場を設けました。まずは2017年10月、役場の職員100名以上で対話をしました。対話の場は役場の中だけでなく、テーマを変えて地域にも広がり、これまでに20回、のべ500名を超える方の参加がありました。場所もメンバーも違う「本音の対話」の中で、いくつか共通するキーワードが見つかりました。





## これまで開催した対話の場

2017年10月20日(金)@千代田中央公民館  
職員ワークショップ「協働って何だろう」

2017年10月27日(金)@北広島町役場  
職員ワークショップ「協働って何だろう」

2017年11月27日(月)@北広島町役場  
職員研修「ファシリテーターって何だろう」

2017年12月4日(月)@北広島町役場  
職員研修「良い問かけ方って何だろう」

2017年12月11日(月)@千代田中央公民館  
職員研修「昔できて今できないこと/  
昔できなくて今できること」

2017年12月23日(土)@北広島町役場  
千代田地域づくり未来塾「これまでの千代田/  
今どきの千代田/これからの千代田」

2018年2月4日(日)@JA広島北部千代田支店  
千代田地域づくり未来塾  
「これまでの千代田/今どきの千代田/  
これからの千代田」

2018年2月25日(日)@大朝支所  
大朝地域協議会「百人会議を振り返る」

2018年3月3日(土)@豊平支所  
豊平地域自治振興会地域づくり講演会  
「これまでの豊平/今どきの豊平/これからの豊平」

2018年3月18日(日)@芸北文化ホール  
芸北未来会議「本当の芸北、本物の芸北って何だろう」

2018年6月17日(日)@芸北文化ホール  
芸北未来会議「芸北に『住む』」

2018年8月10日(金)@北広島町役場  
職員研修「協働は誰のためのものか」

2018年8月20日(月)@北広島町役場  
職員研修「今、私たちが話したいこと」

2018年8月31日(金)@北広島町役場  
職員研修「今、私たちが話したいこと」

2018年9月29日(土)@ゆりかご荘  
豊平の未来を語る会「今、私たちが話したいこと」

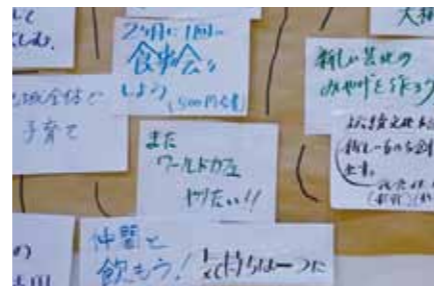
2018年9月29日(土)@豊平中央公民館  
豊平の未来を語る会「今、私たちが話したいこと」

2018年12月2日(日)@芸北文化ホール  
芸北未来会議「今、私たちが話したいこと」

2019年2月3日(日)@原東生活改善センター  
豊平の未来を語る会「今、私たちが話したいこと」

2019年2月3日(日)@JA広島北部千代田支店  
千代田地域づくり未来塾  
「これまでの千代田/今どきの千代田/  
これからの千代田」

2019年3月24日(日)@芸北文化ホール  
芸北未来会議「今、私たちが話したいこと」



## 大事にしたいキーワード

場所もメンバーも違う話し合いのなかで、いくつか共通するキーワードが見つかりました。

### 1.本音で話そう

=対等に聞き合い、つながりたい

人は過程から知りたいし関わりたい。  
「自分で決めた」と思えたときにモチベーションは高まる。  
まとまっていないから話せないではなく、  
途中だからこそ相談しよう。  
普段はあまり接点のない人の話をもっと聞いて、どんどん仲間を増やしていこう。

### 2.やってみよう

=「する」力を大事にしたい

「やらされている」と感じると、とたんにやる気が出なくなる。  
「誰かにやらせよう」ではなく「自分からやってみよう」。  
小さなことでも、期間限定でもかまわない。「実験」「挑戦」だと思えば失敗は当たり前。  
失敗に寛容なまちには「する」力が集まります。

### 3.楽しもう

=自分らしく、ワクワクしたい

楽しく前向きな場は、自然と人が集まり、アイデアも出る。  
「楽しさ」や「ゆるさ」「遊び心」は大人にとっても大事。  
同じ北広島町の「市民」※注として、立場や肩書きに縛られず、自分らしく、楽しみながら暮らしていこう。

※「市民」とは行政区分上の「市」の住民という意味以外に、「市民社会」や「市民運動」のように「主体的に社会に参加する」という意味合いで使われることから、「主体的・能動的に北広島町に関わる人」という意味で用いている。

成功するまで  
やりつければ  
失敗はない。



# chapter 03

## これからの関係性



## みんな地域に関わっている

平成28年に町内で行われたアンケート調査では、41%の人が地域活動に参加しており、19.8%の人が今は地域活動に参加していないが、今後参加したい思いをもっていることが分かりました。役場全職員を対象としたアンケート調査でも、85%もの職員が地域活動へ参加した経験があることが分かりました。

## これから目指すべき姿

多くの方が地域に思いを持ち、関わりを持っている北広島町だからこそ、ともに協力し、支え合う関係性をもっと深めていけます。

「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」をキーワードに、それぞれの立場で責任と役割を認識し、自分達でできることは自分達で始め、お互いに補い合い、協力して北広島町での暮らしをより豊かなものにしていきます。



# chapter 04

## 行政の取組み



### 「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」 が生まれる環境づくり

「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」という3つのキーワードを  
拡げていくためには、対話と実践、共有を繰り返すことが必要です。

#### ! これからの行動

##### 本音で話ができる、対話の場づくり

課題解決や魅力向上に対する「やってみよう」という前向きな気持ちは、  
本音の対話から生まれます。そこで、行政として、地域での対話の場づくりを  
支援するとともに、行政内部でも部局や課を超えた対話の場を  
積極的に増やしていきます。

##### 楽しみのある活動の実践支援

本音の対話から生まれた地域の課題解決や  
魅力向上につながる活動が、楽しみながら  
自分ごととして実践できるよう支援します。  
行政内部でも「本音で話そう」「やってみよう」  
「楽しもう」が生まれる環境づくりを  
目指します。



## 【カイゼン運動】

「現場で汗をかいている職員自らが、業務の進め方や職場環境を改めて見つめ直し、より良くしていく、職場単位での実践活動」が、2000年に福岡市ではじまりました。

D: できるから始めよう(できないしない理由を探さない)、

N: 納得できる仕事をしよう、

A: 遊び心を忘れずに(ゆとり、人間らしさ、明るさを持って取り組もう)、

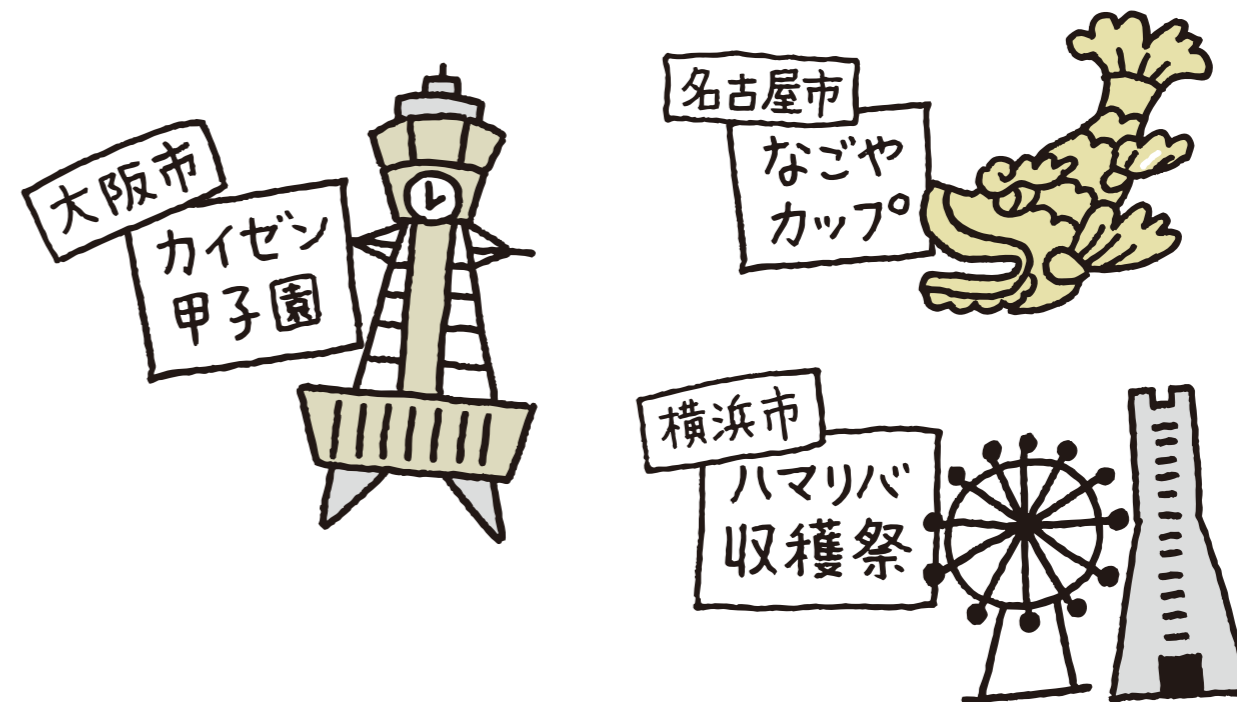
の頭文字をとって「DNA運動」と名付けられた、この業務改善の取組みは、全国の自治体に広がり、全国規模の発表大会が開催されるまでに至っています。

注目したいのは、「提案」だけでなく、「報告・共有する場」を設けていること。

報告の場があれば、言いつばなしのアイデアで終わらず、

小さくても「やってみる」ことにつながります。

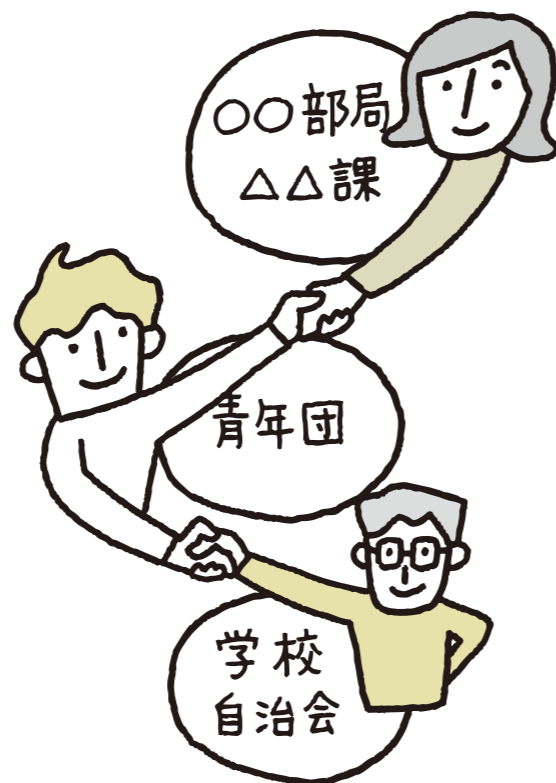
北広島町で「協働」を進める場合にも、この「実践と共有の場」をつくることが「やってみた」が生まれるポイントとなります。



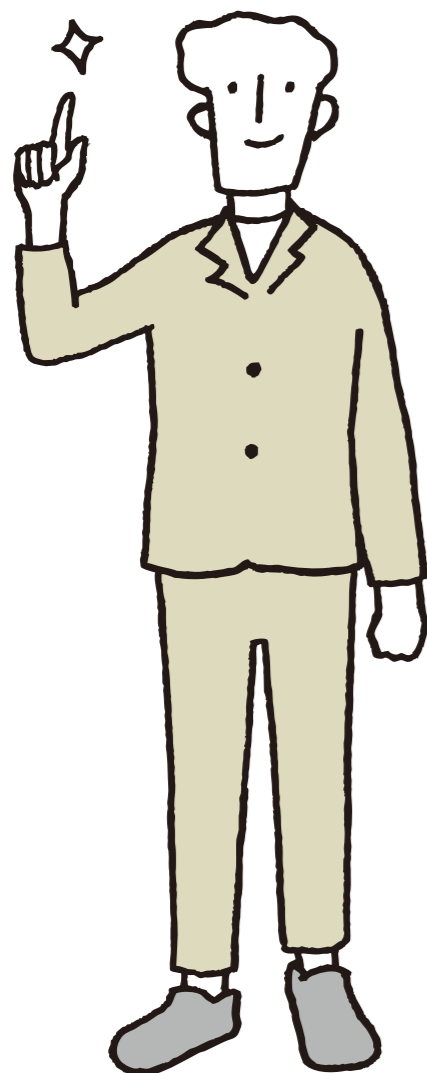
### 「やってみよう」が広がる情報の共有

地域や分野を超えて参加や連携が生まれるよう、情報を収集・共有します。

北広島町に関わる人や組織・団体がお互いに学びあい、支えあう関係を深め広げるための環境を整備します。



### 「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」を支える人づくり



本音を引き出す対話の場を運営し、自分ごとの活動を促す「ファシリテーター」や地域や団体・組織等をつなぎ、相互の連携を促進する役割を担うリーダーを育成します。



# chapter 05

## 地域でもはじめて みませんか？



「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」という指針は、地域でまちづくりを進める上でも大事なキーワードです。ここでは、本音で話し、自分ごととして動く人が増えるための「場づくり」のポイントを整理します。

### Step1 「ワイワイ、ガヤガヤ」話し合う場

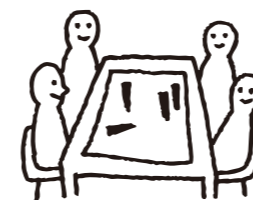
人と話すことで自分の考えが整理されたり、人の話を聞いているうちに良いアイデアが思いついた経験はありませんか。対話をする、言葉にすることはすごく大事で、「言葉が世界をつくる(Words create world)」と表現する人もいます。

「地域の将来を考える」「これからの農業について考える」など、簡単には答えが出ない話題でも、まずは色々な人と対話をする場づくりがおすすめです。その手法として「ワールドカフェ」があります。北広島町では大朝で2016年に「100人会議」が開催されて以降、千代田、豊平、芸北、そして職員どうしの話し合いでもこの手法を活用しました。

#### 流れとポイント

##### ①開会

話し合いのテーマやマナーを共有



1テーブルは4人が  
ちょうど良い人数



テーブルには「落書き」  
できるクラフト紙を敷く



「しっかり聴こう」

否定はせず  
「そんな考えもあるんだ」  
と多様性を認めて  
楽しもう。

##### ②席替えしながら話し合い

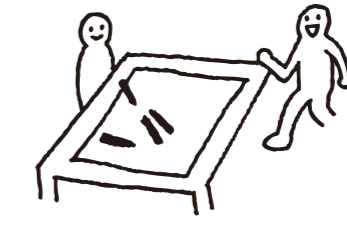
2回ほど席替えをはさみながらテーマについて話していきます



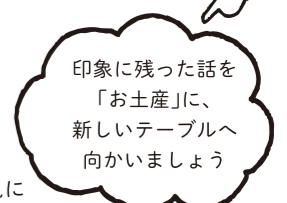
テーマについて4人で  
少し話します



1人をテーブルに残し  
残りの3人は新たなテーブルへ



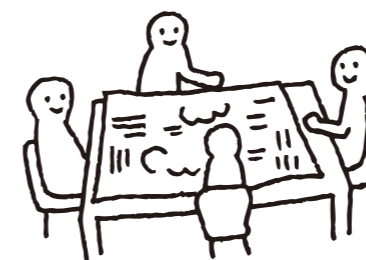
席替えを繰り返すことで全員の意見に  
どこかで出会うことができます



印象に残った話を  
「お土産」に、  
新しいテーブルへ  
向かいましょう

##### ④まとめ

会場全体の気づきや意見を共有



##### ③元の席に戻る

最初のテーブルに「ただいま」と戻りましょう



色々なテーブルで色々な  
意見を聞いて、頭に残って  
いることは何でしょうか？  
驚いたこと、なるほどと  
思ったことなどをもとの  
テーブルに持ち帰りましょう。



## Step2 「この指とまれ」方式の分科会

「本音」で話ができると、自然に「やってみたい」自分ごとのアイデアがでてくるはず。そんな時には「この指とまれ」方式で分科会をつくってみましょう。進め方は簡単で、話したいテーマがある人が「私は今、これについて話してみたい！」と提示し、興味のある人がその周りに集まって話し合うというものです。「人は自分で選び決めることでやる気が出る」という考えにもとづいたこの分科会。実は世界中で行われており、民族紛争の解決や民間企業の商品開発といった場面でも活用されています。

### 流れとポイント

#### ①開会

分科会のマナーを共有

「自分で決める」ということが分科会の最大のマナー。テーマを出しても良いし、さなくても良い。興味あるテーマがなければ、おしゃべりしていても良い。



それくらい自由な場にすることが参加した人の主体性を高めるポイントです。

#### ②テーマ募集

今話したいテーマを出し合います

集まった人の中から、話したいテーマを提案してもらいます。具体的なテーマでも、抽象的なテーマでも大丈夫。



#### ④共有

話し合った内容や感想を共有

話し合った内容や感想を共有しましょう。



#### ③分科会

テーマに分かれた話し合い

テーマが出そろったら、各々興味のあるテーマを提案した人の周りに集まり分科会をスタートします。もし興味のあるテーマがなければグループに無理に入らなくても大丈夫。一度加わったグループでも、途中で抜けてもOKです。



## Step3 「やってみよう」から生まれるプロジェクト

### SUN SELF HOTEL(茨城県取手市)

「SUN SELF HOTEL」は、団地の「空き部屋」を、年に1回だけ1組限定でおもてなしする「ホテル」としてオープンするプロジェクトです。宿泊客をおもてなしするホテルマンは、団地や団地周辺の住民たち。小学生から70代まで、地域の様々な方が自分たちのできること、得意なことを持ち寄って、客室の飾りつけやルームサービス、食事の提供などを行っています。一人ではできそうにないことも、ワイワイガヤガヤ話し合い、「できること」を持ち寄ると、意外と前に進むかもしれません。



### 京都移住計画(京都府)

仲間と少し動いてみると、共感し応援してくれる人はいるはず。京都に移住しやすい環境をつくる「京都移住計画」は、地元京都を離れて東京で働く男性がつくったFacebookグループがきっかけになりスタートしました。「自分以外にも『いつかは地元に戻りたい』と思ってる人は多いのではないか?」。そんな個人的な思いから生まれたプロジェクトですが、現在では、移住した人たちの交流と情報交換を目的とした交流会や、仕事や住まいの情報提供を行うだけでなく、全国20の地域で立ち上がった「移住計画」のネットワークづくりも行われています。



# chapter 06

## 知恵を出し合い 行動する



—「北広島町まちづくり基本条例」の前文の一節より—

わたしたちは、新しい時代の流れを見据える時、人権を尊重し、心豊かな人づくりを行いながら、地域の資源を生かして、暮らしの安心と美しい自然を守っていける、住み良い北広島町を創ることを決意した。

自分たちでできるところから始めてみる、誰かにやらせようではなく、自分のやってみたいことから小さな一歩を踏み出してみましよう。

自分のやってみたいことやアイデアを口に出し、少し取り組んでみる。

小さなチャレンジを周りが応援してくれ、協力してくれる。そんな前向きで人のチカラがあふれたまちは、「本音で話そう」「やってみよう」「楽しもう」をマジメに取り組むことで実現できます。

生きがいとやりがいにあふれた素敵なまちを目指して、「対話」を大事に「関係」を深めていきましょう！

